

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 8 9	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳) Alcohol drinking and cognitive functions: findings from the Cardiovascular Risk Factors Aging and Dementia (CAIDE) Study. アルコール摂取と認知機能 ; Cardiovascular Risk Factors Aging and Dementia (CAIDE)研究からの知見	
執筆者 Ngandu T, Helkala EL, Soininen H, Winblad B, Tuomilehto J, Nissinen A, Kivipelto M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Dement Geriatr Cogn Disord. 2007;23(3):140-9.	
キーワード 飲酒、認知機能、アルコール消費量、コホート研究	
要 旨 背景 : 適量飲酒は認知機能に良い影響を与えることが示唆されている。認知機能は禁酒者やアルコール依存症で中等度または非飲酒者に比べて低下している。また、非飲酒者と比べて認知機能は中等度飲酒者で良く、多量飲酒者で低下している傾向が報告されている。しかし、認知機能と飲酒についての関係を認めなかった報告も多くある。アルコールの認知機能への影響については apolipoprotein E allele epsilon 4(ApoE4)の存在下で修飾されている報告もあるが、その影響のパターンは報告によって異なっている。これらの報告では、飲酒の認知機能に与える影響については大きく異なった結果が報告されている。さらに中年のアルコール摂取が老年期の認知機能に与える影響についてはほとんど明らかになっていない。我々は特に apoE4 キャリアで中年の飲酒が認知症のリスクを増加させることをすでに報告している。本研究では、飲酒が高齢期の非認知症者で認知機能と関係するかについて検討することを目的としている。さらに認知機能が喫煙や性、ApoE4 が飲酒と認知機能の関係を修飾するかについても評価したい。	
方法 : 対象者はフィンランド東部からランダムに 1972 年から 1987 年まで 5 年おきに集められた。1341 名の参加者に対し 1998 年に再度調査が行われた。参加者の平均追跡期間は 21 年、年齢は 65 歳から 79 歳であった。飲酒量は質問紙によって行った。全般的認知機能は Mini-Mental State Examination(MMSE)によって評価した。	
結果 : 中年期に非飲酒者はエピソード記憶、精神運動速度、実行機能のパフォーマンスが機会飲酒あるいは常習飲酒者に比べて、社会地域性、血管に関する因子を調整しても良くなかった。また高齢期の非飲酒者も精神運動、実行機能がよくなかった。これらのことは特に非喫煙者でみられた。さらに ApoE4 は飲酒あるいは性と飲酒に対して相互作用を示さなかった。	
結論 : 中高年の飲酒は高齢期のエピソード記憶、精神運動速度、実行機能などの認知機能に良い影響がある。しかしながら、その結果の必然性がどうか、アルコールが認知機能に同様なメカニズムで作用するのかについては明らかでない。非飲酒者にアルコールを進めるのは時期尚早である。	